



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより
8月号 (No. 5)
平成28年9月5日発行

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

～移行期間中に学校で進めておく点とよいポイント～

教育支援課 学校教育係

平成27年3月に学校教育法施行規則の一部が改正され、「道徳」が「特別の教科 道徳」（道徳科）になり、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度からの全面実施に向けて、平成27年度から、一部改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が可能な「移行措置期間」に入っています。

ここでは、移行措置期間中に各学校で進めておく点とよいポイントを示します。

1 全体計画、年間指導計画の見直し

(1) 全体計画の見直し

①道徳教育の目標

②学校の重点内容項目の検討

③教科、領域における指導の検討（別葉の見直し）

→児童の実態や学校課題を踏まえ、学校としてどんな子どもを育てたいのか（子どものどのような道徳性を高めたいのか）を明らかにしましょう。

(2) 年間指導計画の見直し

①年間35時間の計画的な実施

→他の授業に安易に変更したり、内容項目に偏りがあつたりすることのないようにしましょう。

②改訂学習指導要領に示された内容項目の位置付け

→今回の改訂で新たに追記された内容項目について、「私たちの道徳」の巻末に追加されている資料を活用するなどして、全ての内容項目を年間指導計画に位置付けましょう。

③「私たちの道徳」の位置付け

→2学年間で使用することを踏まえて、どの資料をどの学年で扱うか、また、どのように活用するかを、これまでの活用実践をもとに、位置付けたり修正したりしましょう。

2 「特別の教科 道徳（道徳科）の時間」の授業改善

(1) 児童生徒が道徳的価値を自分との関わりで考えられるようにすること

→価値を観念的に理解するだけでなく、自分自身の体験や仲間との話合いを通して、「『大切なことだけど、なかなか実現することは難しい』等の『人間理解』、「『感じ方や考え方は一つではなく、いろいろある』等の『他者理解』、そして、実感を伴った『価値理解』へと意図的・計画的に深めていくことを大切にしましょう。そのためにも、「ねらいに応じた発問の工夫」は大切です。

(2) 授業の中で児童生徒の変容を捉えるようにすること

→最後に「振り返り」や「まとめ」を書く場合、1時間の授業を通して、どんなことが書かれることを期待するのか、明確にイメージしておきましょう。また、他の児童生徒との比較ではなく、一人一人の道徳性に関する変容を捉えていくことが大切です。

道徳教育は、「特別の教科 道徳（道徳科）」の時間を要として、教育活動全体を通じて行うものです。また、**道徳教育では道徳性を養うこと、「特別の教科 道徳（道徳科）」では「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てることを**目標としています。

すでに年間指導計画、別葉等の見直し等に取り組み始めてくださっている学校もあります。以下のものを参考にしながら、校内で研修をしたり実践の参考にしたりしてください。

- ・「小（中）学校 学習指導要領」（一部改正 平成27年3月 文部科学省）
- ・「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成27年7月 文部科学省）
- ・「一部改正 小（中）学校 学習指導要領『実施の手引き』《総則・道徳科》
（平成28年2月 岐阜県教育委員会）



「全国学力・学習状況調査」の結果の分析に向けて

～岐阜地区の結果概要と結果分析のポイント～

教育支援課 学校教育係

4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果が、各校に届きました。日頃の指導改善の成果が多くの問題で見られたことと思います。ここでは、岐阜地区全体の傾向と、成果の見られた問題とその要因を示します。

【全体の傾向】

小学校国語では、A問題・B問題ともに県の平均正答率を若干上回っています。

小学校算数では、A問題・B問題ともに全国の平均正答率を若干上回っています。県の平均正答率との比較では、A問題は若干上回っており、B問題では上回っています。

中学校国語では、県の平均正答率を若干上回っており、B問題は県を上回っています。

中学校数学では、A問題・B問題ともに県の平均正答率を上回っています。

【特に成果の見られた問題とその要因（例）】

国語（小学校国語A 8-1）「ひらがなで表記されたものをローマ字で書く。」

- ・ローマ字の学習場面で定着状況を見届けるだけでなく、朝（帯）学習を利用して定期的に復習をすることで確実な定着を図っています。中には、ローマ字で簡単な日記を書くことを宿題として示した学校もありました。

算数・数学（中学校数学A 1（2））「自然数の意味を理解している。」

- ・用語の意味を理解するためには、用語を覚えることに加えて、用語を使って説明するなど繰り返し用いることが大切です。説明に用いる用語を示したり、曖昧な説明に対して、用語を用いるよう問い返したりする指導が見られました。

【結果分析のポイント（例）】

岐阜地区全体の概要について、県の平均正答率との比較から成果を明らかにしましたが、各校においては、児童生徒一人一人に学力が身に付いているかどうかを分析することが大切です。具体的には次のような分析の視点が考えられます。

- ・調査結果概況をもとに、平均より著しく正答率の低い児童生徒の割合や分布の様子はどうか。
- ・設問別調査結果をもとに、正答率が特に低い設問はどれか。（例：A問題で70%を下回るもの）
- ・設問別（解答類型）調査結果をもとに、どのような誤答の傾向があるか。
分析の結果を日々の指導改善に役立て、確実に学力が身に付くよう指導をお願いします。